

1 単元指導計画 ア:「知識・技能の定着に重点を置く授業」イ:「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力などを育むことに重点を置く授業」

単元	<b>単元のきよみずガエル君</b> かけざんのべんきょうで分かったことは何ケロッ? できるようになったことは何ケロッ? 九九マスターになれたケロッ?			
時	1 (イ)	2 (ア)	3 (ア)	4 (ア)
ねらい	乗り物に乗っている人を数える活動を通して、同じ人数が乗っているときに数えやすいことに気づき、「～人ずつ～台で～人」と表すことができる。	「～人ずつ～台で～人」を式で表す活動を通して、乗法について理解を深め、自分で式をつくることができる。	ドーナツの数を求める活動を通して、乗法の立式が確実にできるようになるとともに、乗法の答えは同数累加によって求められることに気づき、答えを求めることができる。	同じ数ずつまとめたものを探す活動を通して、身のまわりには乗法で表すことができるものがあることに気づき、式に表すことができる。
問題	のりものにのっている人の数をしらべましょう。	コーヒーカップが6台あります。ぜんぶで何人のっているでしょう。	ドーナツが4こずつ入ったバックが5つあります。ドーナツはぜんぶで何こでしょう。	かけ算のしきになるものをさがしてカードに書きましょう。
課題	のりものにのっている人の数をしらべて、せつめいしよう。	コーヒーカップにのっている人数をしきであらわそう。	ドーナツの数をもとめよう。	かけざんさがしをしよう。
まとめ	同じ人数がのっているときは、「～人ずつ～台で～人」とあらわすことができる。	「3人ずつ6台で18人」は「 $3 \times 6 = 18$ 」とあらわすことができる。	$4 \times 5$ の答えは $4+4+4+4+4$ でもとめることができる。	同じ数でつくられているものや、きれいにならないものはかけざんであらわすことができる。
評価規準	【考】全体の数量を基準とする大きさのいくつ分としてとらえている。	【知】乗法の式は、同数のものがいくつあるときに用いることを理解している。	【知】乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求められることを理解している。	【技】ものの個数を乗法の式に表し、答えを求めることができる。
きよみずガエル君	<b>絵から分かったことをお話できたケロッ?</b> ・ゴーカートは、1台に2人ずつ5台分あるので10人の人が乗っている。	<b>あたらしく分かったことは何ケロッ?</b> ・かけざんを新しく勉強した。 ・ $\times$ の書き方が分かった。	<b>かけざんのもとめかたをお話できたケロッ?</b> ・かけざんはたしざんで求めることができる。 ・ $4 \times 5$ は4を5回足せば求めることができる。	<b>かけざんをたくさん見つけられたケロッ?</b> ・トイレのスリッパは2足ずつ5つ分あるから $2 \times 5 = 10$ で10足ある。
具体的な評価の場面	絵を見て、ロケットと観覧車に乗っている人数を表すことができる。	アイスクリームの絵を見て、かけざんの式で表すことができる。	絵を見て、式と答えを求めることができる。	身のまわりのかけざんを見つけることができる。
具体的な児童の姿	・ロケットには2人ずつ4台分で8人乗っている。 ・観覧車には2人ずつ8台分で16人乗っている。	・2つずつのアイスクリームが4つ分ある。 $2 \times 4 = 2 + 2 + 2 + 2 = 8$ だから、ぜんぶで8こ	・プリン3こが7つ分で21こ $3 \times 7 = 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 = 21$ ・クッキー7こが2つ分で14こ $7 \times 2 = 7 + 7 = 14$ ・ジュース6本が3つ分で18本 $6 \times 3 = 6 + 6 + 6 = 18$ ・あられ5枚が6つ分で30枚 $5 \times 6 = 5 + 5 + 5 + 5 + 5 + 5 = 30$	・トイレのスリッパは2足ずつ5つ分ある。 $2 \times 5 = 2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 10$ だから、ぜんぶで10足

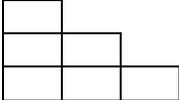
1 単元指導計画      **ア：「知識・技能の定着に重点を置く授業」**    **イ：「知識・技能を活用し，思考力・判断力・表現力などを育むことに重点を置く授業」**

単元	<b>単元のきよみずガエル君</b> かけざんのペンきょうで分かったことは何ケロツ？    できるようになったことは何ケロツ？    九九マスターになれたケロツ？			
時	<b>5 (ア)</b>	<b>6 (ア)</b>	<b>7 (ア)</b>	<b>8 (ア)</b>
ねらい	1 皿に2個ずつあるケーキの数を図や式を使って求める活動を通して，2ずつ増えることに気付き，同数累加によって答えを求め，2の段の九九を構成することができる。	様々な方法で九九を唱える活動を通して，2の段の九九を正しく唱えることができる。	1パックに5本ずつ入っている飲み物の数を図や式を使って求める活動を通して，5ずつ増えることに気付き，同数累加で5の段の九九を構成することができる。	様々な方法で九九を唱える活動を通して，5の段の九九を正しく唱えることができる。
問題	ケーキを1さらに2こずつのせていきます。ケーキの数を1さら分からじゅんにもとめましょう。	2のだんの九九をおぼえましょう。	1パックに5本ずつのみものが入っています。のみもの数を1パック分からじゅんにもとめましょう。	5の段の九九をおぼえましょう。
課題	1さらに2こずつのっているケーキの数をもとめよう。	2のだんの九九をマスターしよう。	1パックに5本ずつ入っているのみもの数をもとめよう。	5のだんの九九をマスターしよう。
まとめ	1さらふえるごとに2ずつ足せばこたえがもとめられる。2, 4, 6, 8, 10と2とびで数えるともとめることができる。		1パックふえるごとに5ずつ足せばこたえをもとめられる。5, 10, 15, 20と5とびで数えるともとめることができる。	
評価規準	【知】2の段の九九の構成のしかたや，「九九」の用語と意味を理解している。	【技】2の段の九九を唱えることや，それを適用して問題を解決することができる。	【技】5の段の九九を構成することができる。	【技】5の段の九九を唱えることや，それを適用して問題を解決することができる。
きよみずガエル君	<b>2のだんの九九で分かったことは何ケロツ？</b> ・2のだんは2・4・6・8・10のように2とびで数えることができる。	<b>2のだんマスターになれたケロツ？</b> ・カードを見ながら，言えた。 ・ずらずら言えるようになった。 ・もっと上手に言えるようになりたい。	<b>5のだんの九九で分かったことは何ケロツ？</b> ・5のだんは5・10・15・20・25のように5とびで数えることができる。	<b>5のだんマスターになれたケロツ？</b> ・カードを見ながら言えた。 ・ずらずら言えるようになった。 ・もっと上手に言えるようになりたい。
具体的な評価の場面	2の段を構成することができる。	ジュースを，1人2はいずつのみました。5人で何ばいのんだでしょう。	5の段を構成することができる。	おり紙を1人に5まいずつくばります。8人にくばるには，おり紙は何まいいるでしょう。
具体的な児童の姿	・ $2 \times 1 = 2$ ， $2 \times 2 = 4$ ， $2 \times 3 = 6 \dots$ $2 \times 9 = 18$ ・答えが2ずつふえていく。	・ジュースを2はいずつ，5人のんだので $2 \times 5 = 10$ こたえ10ばい	・ $5 \times 1 = 5$ ， $5 \times 2 = 10$ ， $5 \times 3 = 15 \dots$ $5 \times 9 = 45$ ・答えは5ずつふえていく。	・おり紙を5まいずつ，8人にくばるので， $5 \times 8 = 40$ こたえ40まい

1 単元指導計画      **ア：「知識・技能の定着に重点を置く授業」**    **イ：「知識・技能を活用し，思考力・判断力・表現力などを育むことに重点を置く授業」**

単元	単元のきよみずガエル君 かけざんのべんきょうで分かったことは何ケロツ？    できるようになったことは何ケロツ？    九九マスターになれたケロツ？			
時	9 (ア)	10 (イ) 【本時】	11 (ア)	12 (イ)
ねらい	2の段や5の段の九九カードでかけ算ビンゴを行う活動を通して，2の段や5の段の九九を習熟する。	3の段の答えを求める活動を通して，3の段では，乗数が1増えると答えが3ずつ増えることに気づき，3の段の九九を構成することができる。	様々な方法で九九を唱える活動を通して，3の段の九九を正しく唱えることができる。	4の段の答えを求める活動を通して，4の段では，乗数が1増えると答えが4ずつ増えることに気づき，4の段の九九を構成することができる。
問題	かけ算ビンゴをしよう。	3のだんの九九をつくりましょう。	3の段の九九をおぼえましょう。	4の段の九九をつくりましょう。
課題	べんきょうした九九をつかって，かけざんビンゴをしよう。	3のだんの九九のこたえのもとめかたを考えよう。	3のだんの九九をマスターしよう。	4のだんの九九のこたえのもとめかたを考えよう。
まとめ		3×4の3をかけられる数，4をかける数という。3のだんでは，かける数が1ふえるごとに，こたえが3ずつふえていく。		4のだんでは，かける数が1ふえるごとに，こたえが4ずつふえていく。
評価規準	【技】2の段と5の段の九九を正しく唱えることができる。	【考】乗数が1増えると答えが3増えることを活用して，3の段の九九の構成を考えている。	【技】3の段の九九を唱えることや，それを適用して問題を解決することができる。	【考】かける数が1増えると答えが4増えることを活用して，4の段の九九の構成を考えている。
きよみずガエル君	<b>たくさんビンゴができたケロツ？</b> ・2の段と5の段を使って，楽しくビンゴができた。	<b>3のだんの九九で分かったことは何ケロツ？</b> ・3のだんの九九は，かける数が1ふえると，こたえが3ずつふえる。 ・3のだんの九九は，かける数が1へると，こたえが3ずつへる。	<b>3のだんマスターになれたケロツ？</b> ・カードを見ながら言えた。 ・すらすら言えるようになった。 ・もっと上手に言えるようになりたい。	<b>4のだんの九九で分かったことは何ケロツ？</b> ・4のだんの九九は答えが4ずつふえていく。
具体的な評価の場面	算数たまたまこ	3×7= <input type="text" value="1"/> 3×8=24 3×9= <input type="text" value="ア"/>	花を3本ずつ5つの花びんに入れます。花はぜんぶで何本いるでしょう。	4×7= <input type="text" value="1"/> 4×8=32 4×9= <input type="text" value="ア"/>
具体的な児童の姿	・勉強した2の段と5の段を使って，友達と楽しくかけ算ビンゴをすることができた。	<input type="text" value="ア"/> 3×9はかける数が8から9へ1ふえている。3のだんでは，かける数が1ふえると，こたえが3ずつふえるので， 24+3=27 だから，3×9=27 <input type="text" value="イ"/> 3×7はかける数が8から7へ1へっている。3のだんでは，かける数が1へると，こたえが3ずつへるので，24-3=21 だから，3×7=21	・花を3本ずつ5つの花びんに入れるので， 3×5=15 こたえ15本	<input type="text" value="ア"/> 4×9はかける数が8から9へ1ふえている。4のだんでは，かける数が1ふえると，こたえが4ずつふえるので， 32+4=36 だから，4×9=36 <input type="text" value="イ"/> 4×7はかける数が8から7へ1へっている。4のだんでは，かける数が1へると，こたえが4ずつへるので，32-4=28 だから，4×7=28

1 単元指導計画      **ア：「知識・技能の定着に重点を置く授業」**    **イ：「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力などを育むことに重点を置く授業」**

単元	<b>単元のきよみずガエル君</b> かけざんのべんきょうで分かったことは何ケロツ？    できるようになったことは何ケロツ？    九九マスターになれたケロツ？			
時	13 (ア)	14 (ア)	15 (ア)	16 (ア)
ねらい	様々な方法で九九を唱える活動を通して、4の段の九九を正しく唱えることができる。	もとにする量のいくつ分を「ばい」で表現することを知り、その大きさを乗法の式に表す活動を通して、理解を深めることができる。	まとめの問題を解く活動を通して、基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	2・3・4・5の段の九九を活用したゲームを行う活動を通して、2から5の段の九九に習熟する。
問題	4の段の九九をおぼえましょう。	3cmのテープの2つ分、3つ分の長さはそれぞれ何cmでしょう。	まとめのれんしゅう	九九のカードゲームをしよう。
課題	4のだんの九九をマスターしよう。	テープの長さをしらべよう。	まとめのれんしゅうをしよう。	九九をつかって、ゲームをしよう。
まとめ		 1つ分=1ばい 2つ分=2ばい 3つ分=3ばい		
評価規準	【技】4の段の九九を唱えることや、それを適用して問題を解決することができる。	【知】「1ばい」、「2ばい」、「3ばい」の用語の意味を理解している。	【知】2から5の段の九九を用いて、問題を解くことができる。	【技】2の段から5の段の九九を正しく唱えることができる。
きよみずガエル君	<b>4のだんマスターになれたケロツ？</b> ・カードを見ながら言えた。 ・すらすら言えるようになった。 ・もっと上手に言えるようになりたい。	<b>新しく分かったことは何ケロツ？</b> ・ばいという言葉が分かった。 ・1つ分を1ばい、2つ分を2ばい、3つ分を3ばいということが分かった。	<b>できるようになったことは何ケロツ？</b> ・2・3・4・5段の九九をつかって、問題を解くことができた。	<b>べんきょうしたことをつかって、たのしくゲームができたケロツ？</b> ・勉強した2・3・4・5の段の九九を使って、友達と楽しくカードゲームができた。
具体的な評価の場面	4さつずつたばになったノートが9たばあります。ノートはぜんぶで何さつあるでしょう。	あんぱん5個の3ばいを、かけざんを使って求めることができる。	まとめのれんしゅう	算数たまてばこ
具体的な児童の姿	・4さつたばが9つあるので、 $4 \times 9 = 36$ こたえ 36さつ	・あんぱん5この3ばいは 5が3つ分あるということなので $5 \times 3 = 15$ こたえ 15こ	・ $3 \times 7$ の式では、3がかけられる数で7がかける数ということがわかった。	・かけられる数とかける数が違って、 $2 \times 6$ と $3 \times 4$ のように答えが一緒の式があることに気付いた。

**2 本時のわらい** 3の段の九九の答えを求める活動を通して、3の段では、乗数が1増えると答えが3ずつ増えることに気づき、3の段の九九を構成することができる。

**3 本時の展開**

**①単元のきよみずガエル君**  
 かけざんのべんきょうで分かったことは何ケロ？ できるようになったことは何ケロツ？ 九九がすらすら言えるようになったケロツ？

**②本時のきよみずガエル君** 3のだんの九九で分かったことは何ケロツ？

**第1ブロック**

**⑨前時の問題・単元**  
 ○2の段、5の段の九九を復習する。  
 ・2の段の九九は答えが2ずつ増えた。  
 ・5の段の九九は答えが5ずつ増えた。



**⑩学習課題をつかむ思考の活性化**  
**【問題】1パックに3つつヨーグルトが入っています。3のだんの九九をつくりましょう。**  
 ○前時の学習から見通しを持つ。  
 ・今日は、3の段だ。  
 ・2の段は2ずつ、5の段は5ずつ答えが増えたから、3の段も3ずつ増えそうだ。



**第2ブロック**

**⑥課題**  
 3のだんの九九をつくろう。

**⑦数学的活動の思考の活性化**

(あ) 図で考える

$3 \times 1$	$3 \times 2$	$3 \times 3$	...
● ● ●	● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ●	
3	6	9	
3ふえる	3ふえる		

(い) 式で考える

$3 \times 1 = 3$	3ふえる
$3 \times 2 = \square$	3ふえる
$3 \times 3 = \square$	3ふえる
$3 \times 4 = \square$	3ふえる
$3 \times 5 = \square$	3ふえる
$3 \times 6 = \square$	3ふえる
$3 \times 7 = \square$	3ふえる
$3 \times 8 = \square$	3ふえる
$3 \times 9 = \square$	3ふえる

(う) 同数累加で考える

$3 \times 1 = 3$   
 $3 \times 2 = 3 + 3 = 6$   
 $3 \times 3 = 6 + 3 = 9 \dots$

・すべて3ずつふえていく

**⑧まとめ**  
 3のだんは、かける数が1ふえると、こたえが3ずつふえる。 $3 \times 4$ の3をかけられる数、4をかける数という。

**第3ブロック**

**④問題の2つ目**  
 当てはまる答えを考えよう。  
 $3 \times 7 = \square$   
 $3 \times 8 = 24$   
 $3 \times 9 = \square$



**⑤振り返り(まとめ)の思考の活性化**

○かける数が1つつ増えていることを確認する。  
 ○自分で考えた後、友達と交流する。

$3 \times 9$ はかける数が8から9へ1ふえている。3のだんでは、かける数が1ふえると、こたえが3ずつふえるので、 $24 + 3 = 27$ だから、 $3 \times 9 = 27$

$3 \times 7$ はかける数が8から7へ1へっている。3のだんでは、かける数が1へると、こたえが3ずつへるので、 $24 - 3 = 21$ だから、 $3 \times 7 = 21$

**③本時のきよみずガエル君**  
 ・3のだんの九九は、かける数が1ふえると、こたえが3ずつふえる。・3のだんの九九は、かける数が1へると、こたえが3ずつへる。



・既習の学習内容を掲示し、本時と前時の違いを視覚的にとらえられるようにする。  
 ・前時の学習を振り返り、3の段でも答えが3ずつ増えそうだという見通しを持たせる。

・乗法の意味を視覚的に理解できるようにするために、アレイ図と式を関連付けて説明ができるようにする。  
 ・板書で「かける数が1ふえるごとに、こたえも3ずつふえる」ことを確認し、乗法についての理解を深める。

・問題の2つ目では、かける数が1つつ増えていることに着目させてから取り組ませることで、答えが3ずつ増えるということについて理解を深める。  
 ・はやく終わった児童は、習熟を図るための補充問題をやる。